

姫 島 村

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

I. 調査結果の分析（○成果・△課題）

- すべての問題において無解答率が0%であり、児童の問題に取り組もうとする意欲がうかがえた。（昨年度村学力テスト無解答率8.6%・・・物語の内容を読み取り意見や感想を書いたり報告する文章・自分の意見を理由をもとに書いたりするが弱かった）
- スピーチの構成の読み取り、スピーチの一部の内容選び、助詞「より」の使い方、「げんいん」を漢字で書くは、全員100%と良く理解できていた。
- △（読むこと）「資料」を読み取り、与えられた条件に合わせて作文する問題で、全国正答率も低いが校内正答率は0%と全員が間違っていた。
- △（書くこと）「気持ちよく学校生活を送ることができるように、自分の考えを学級の友だちに主張する文章を書く」で他の考えの人を説得させるように条件に沿って作文する問題で、県正答率・全国正答率より低く50%であった。
- △（言葉の特徴・使い方）「すぐに」が修飾する言葉を選択する問題で、校内正答率が25%で県や全国より20%程低かった。

II. 具体的な改善方策

△課題に対する取組

- ・ かっこタイム（火曜日の朝）や週末の宿題で、語彙を増やすための問題プリントに取り組みさせる。やり直しを提出日におこない、定着を図る。
- ・ 水曜日の宿題で視写や作文についてのプリントに取り組みさせる。また、日頃の学習時間にも、自分の考えやその理由を書くことを習慣づけ、論理的な思考を深めるようにする。

姫 島 村

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

I. 調査結果の分析（○成果・△課題）

- 全体的に良く出来ている。特に、速さ・道のり・時間を求める問題、時刻を求める問題、棒グラフの読み取り問題、余りのある除法の余りの扱いについての問題は、全て100%で良く理解できていた。
- 国語と同じく、無解答率は0%であった。（昨年度村学力テスト無解答率3.7%・・・小数のかけ算・わり算の立式・解答を求める、問題の場面を理解し平均を求めたり、およその答えを求める方法を説明したりするのが弱かった）
- △ 「直角三角形の面積の求め方」について高さの捉え方に課題が残る。
- △ 同じく、「複数の図形を組み合わせた平行四辺形」について高さを求めて複合面積を求めさせる問題が課題である。

II. 具体的な改善方策

△課題に対する取組

- ・ 9月の算数科「円の面積」の単元の導入で、既習内容である三角形の面積の求め方について、図形が回転しても「高さ」や「底辺」がどこにあたるかを見つけ求められるよう定着を図る。
- ・ 9月の算数科「円の面積」の単元において、円以外の図形の面積について復習し、かにかっこタイム（木曜日の朝）や宿題で定着を図る。

姫 島 村

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童質問紙）

I. 調査結果の概要（○成果・△課題）

- 基本的な生活習慣の早寝・早起き・朝ご飯を保健指導していることから「朝食を毎日食べる」「同じくらいの時刻に寝る・起きる」は良く出来ている。
- 「将来の夢や目標を持っている」児童は、100%（4人）で、「自分でやると決めたことは、やり遂げる」もどちらかと言えばを含めると100%であった。
- △ 新聞を読まない・家庭読書時間が少ないので、それに見合った「子ども新聞」等の活用で読む習慣づくりや読む力を育成していく必要がある。
- △ 学校でのICT機器を意見交換や調べ学習に活用出来ていないと回答する児童がほとんどなので、GIGAスクール構想もあり一人1台のタブレット端末を利用して授業力向上を図っていく必要がある。

II. 姫島村の児童質問紙の調査結果をふまえて

△課題に対する取組

- ・ 自分やまわりの人を認め、支え合える人権意識の確立
- ・ 活字を読む習慣づくり・・・朝の活動のモーニング読書、家庭読書の取組の継続
- ・ 一人1台タブレット端末の利用、ICTを活用した授業力の向上

姫 島 村

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

I. 調査結果の概要（○成果・△課題）

- 調査学年の児童については、授業中の私語が少なく、落ち着いて学習に取り組んでいる教室環境が確立できている。
- 前年度までに、「将来就きたい仕事や夢」のテーマについて考えたり話し合ったり、学級全員で一つのことに向かって取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたりして取り組ませている。
- 調査学年の児童に対する国語・算数の指導として、前年度までに、朝のかにっこタイム・放課後かにかにっこチャレンジの時間を確保し補充的な学習の指導や発展的な学習の指導を行ってきた成果が顕著に見られた。
- △ コンピュータなどの ICT 機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備が整っていない、児童の PC・タブレット等の端末を家庭で利用できるようにしているが利用回数等の規制をかけている、家庭での通信環境が整っていない等の課題がある。
- △ 姫島 ICT 構想で教職員の ICT 活用のスキルアップは進んでいると言えるが、教職員全員のオンライン研修等、よりスキルアップが必要である。

II. 姫島村の学校質問紙の調査結果をふまえて

△課題に対する取組

- ・ 遠隔・オンライン授業のための通信環境整備
- ・ 家庭の PC・タブレット等の通信環境整備
- ・ 教職員の ICT 活用のスキル不足

【 姫島村 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

○評価の観点「話すこと・聞くこと」の正答率は全国平均を1.2%上回った。「話し合いの話題や方向を捉えて話す内容を考える」設問では14.3%、「書くこと」では「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」設問で、3.8%全国の正答率を上回った。

○「書くこと」の正答率は9.5%、「読むこと」は19.9%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関すること」は25.1%、全国の平均正答率を下回った。

○大問1（三）「参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く」（話すこと・聞くこと）という記述式の問題と大問3（三）『『反対の結果を呈出した』』について、このことが分かる『黒』の様子を文章の中から抜き出す」（読むこと）という短答式の問題は、全国の正答率をやや上回った。前者については「根拠を持って自分の意見を言う」という学習活動が「目的や場面を意識して聞く」という力に結びついていると考えられる。また後者であるが、登場人物の言動の意味を理解して読み取ることができていることが分かる。

○大問3（四）の『『吾輩』が『黒』をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く』（読むこと）という記述式の問題については無回答率が高く、正答率がかなり低かった。「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つことができるかどうかをみる」という趣旨の問題である。他者のものの見方や考え方を自分の考えと対比させて考えようとする力に課題があると考えられる。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

○読むこと

文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える力を身につけるために、文章の特徴を把握させるとともに、内容や表現を、想像・分析・比較・対照・推論などによって、相互に関連付けて読む学習活動を設定する。

○書くこと

「他と自分の考えとがどのような関係にあるのか」や「相手に効果的に伝わることを意図して書く」ということを考えて書く指導をしていく。

○補充学習では、基礎基本の定着を図る課題を扱って指導する。

【 姫島村 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

- 全ての領域において全国平均を下回っているが、その中でも「数と式」「図形」「関数」に関しては大きく下回っている。観点別では「数学的な見方や考え方」の正答率が低く、記述式の正答率も低かった。
- 「資料の活用」領域では「与えられたデータから中央値を求める」問題の正答率は100%であった。
- 関数の意味を理解できていない生徒が多い。
- 「問題解決をするための根拠となることがらを判断すること」や「文字式を使って説明すること」に関する設問が特にできていない。
- 全体的に文章を読み取る力に課題があり、問題に対応できていなかった。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- 「数と式」では、授業の初めに基本的な計算問題を何度も解かせることで定着を図るようにする。「関数」では、3年生での関数の学習時に、比例・反比例や一次関数の復習を取り入れる。
- 「問題解決するための根拠となることがらを判断すること」に関しては、週末課題で出すことで問題に慣れさせ、授業で解説する。「文字を使って説明すること」に関しては、穴埋め問題をプリントでさせ、受験対策教材で同様の問題に取り組ませる。
- 文章を読み取る力に関しては、授業の中で個人で読ませる時間を確保し、その後、全体で内容を確認しながら大切な部分（問題を解くのに必要な部分）を押さえていくことで読み取るポイントを身につけさせる。

【 姫島村 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

中学校：学校質問紙

○教科指導

個に応じた指導については、数学や英語の授業の中で習熟度別少人数指導を行ってきた。

数学科の指導法においては、補充的な学習に取り組むとともに公式やきまりを学習する際はその根拠を理解できるよう工夫したり、問題の解き方や考え方の過程がわかるようなノート指導の工夫に力を入れて取り組んだりし、計算問題などの反復練習にも力を入れて指導している。

国語科の指導法においては、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、根拠をもって考えを述べたり書いたりする授業に力を入れるとともに、漢字・語句などの基礎的・基本的な内容の定着にも重点をおいて取り組んでいる。様々な文章を読む習慣を付ける授業については、朝読書指導や図書室の活用と関連づけて指導している。

○学力向上

生徒の状況については、授業中の学習規律はほぼ整っており、グループ活動等も円滑に行えるが、自分の考えをもち、根拠をもとに相手に伝えることができているとは言い難い。

学力向上に向けた取組・指導方法については、「新大分スタンダード」に基づき、「1時間完結型」授業や「板書の構造化」に係る取組に工夫をしてきたことが分かるが、「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開」「習熟の程度に応じた個別の指導」の工夫が更に求められる。

家庭学習については、各学年の目標学習時間を設定し生徒や保護者に働きかけを行ってきたが、家庭学習の内容や与え方、その評価・指導等に改善の余地がある。小中で連携して作成した「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭との連携した取組につなげている。学期ごとの評価をもとに、「家庭学習の手引き」の周知徹底と効果的な活用をさらに工夫していく必要がある。また、家庭学習時間確保の阻害要因である情報機器類の使用時間のきまりを徹底させることが喫緊の課題であり、家庭と連携した取組を行う必要がある

○学校経営

学校運営上の課題解決に向けて、校長のリーダーシップのもと組織的に取り組むとともに、教職員の資質能力の向上に向けて、授業研究や事例研究を中心とした校内研修に取り組んでいる。また、若手教職員の育成にも授業力向上アドバイザーを中心に取り組んでいる。

地域人材・施設の活用においては、職場体験学習や各種地域行事への参加、地域の人と関わりながら地域を学ぶ学習においては積極的に取り組むことができている。地域の方々やPTAも協力的で、部活動支援・学校行事の運営などにも関わることができている。学習支援については十分行えておらず今後の課題である。水曜日・土曜日等を利用した「協育」ネットワーク連携促進事業に係る取組は、計画的に実施できている。

2 姫島村の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 「新大分スタンダード」に基づく問題解決的な授業展開の工夫と個別指導
- 保護者と連携した家庭学習の充実・習慣化に向けての取組強化
- 小学校と連携したESDの視点からの教育活動の推進

【 姫島村 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

生徒質問紙

○学習に対する関心・意欲・態度

国語の学習については、「国語の勉強が好きである」「国語の勉強は大切である」「よく分かる」とほぼ全員の生徒が回答している。平均正答率は全国・県平均を下回っているが、授業改善や補充学習・家庭学習における丁寧な個別指導が意欲につながっている。

数学の学習については、「数学の勉強は大切である」「よく分かる」と回答している生徒は、全国・県平均値より高く、少人数授業による個に応じた指導の成果が表れている。しかし、平均正答率では全国・県平均値を下回っており、授業および補充学習・家庭学習・個別指導等を活用した学習内容の定着が課題である。

新大分スタンダードに関する「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができたか」という質問の肯定的回答は全国・県平均を上回った。また、「ふるさと科」（総合的な学習の時間）としての取り組みが、地域・社会への関心の高さにつながっており、「地域の行事に参加しているか」の肯定的回答は全国・県平均値を大きく上回った。

○規範意識・自己有用感

規範意識については、「人が困っていると進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と100%の生徒が肯定的に回答した。学校生活を通して規範意識を高める取組の継続と実践力の向上が期待される。

自己有用感については、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は全国・県平均よりも高いが、「自分にはよいところがある」と回答した生徒は、全国・県に比べてやや低かった。

○学習の基盤となる生活習慣・学習習慣

生活習慣については、朝食についての回答や全国・県に比べてやや低かったが、起床や就寝時間に関する肯定的回答は全国・県に比べて高く、規則正しい生活習慣が身につけている傾向にある。

学習習慣については、「家庭で自分で計画を立てて勉強している（授業の予習復習を含む）」の肯定的回答は全国・県平均よりやや上回るが、家庭と連携して家庭学習を充実させることが課題である。

2 姫島村の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・新大分スタンダードの視点および授業改善の5点セットにそった授業改善推進
- ・放課後等を活用した補充学習・個別指導の工夫・改善
- ・家庭学習習慣定着のため、家庭と連携した学習に向かう環境整備の推進
- ・進路学習と連動した学習意欲向上の取組の推進
- ・自己有用感や規範意識を高めるための支援や場づくり